



会 長 小林 幹夫 青少年奉仕 橋本八右衛門
副 会 長 道尻 誠助 幹 事 正部家光彦
クラブ奉仕 道尻 誠助 会 計 佐々木泰宏
会長エレクト 紺野 広 会場監督 峯 正一
職業奉仕 妻神 和憲 直前会長 小井田和哉
社会奉仕 地代所久恭 副 幹 事 松本 剛典
国際奉仕 中村 稔彦 会計補佐 山村 和芳

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
http://hachinohe-rotary.org/
会報・広報委員長 峯 正一 同副委員長 荒谷 達也
同 委 員 廣田 茂 同 委 員 道尻 誠助

国際ロータリーのテーマ — 2022~23 — 八戸ロータリークラブのテーマ

イマジン ロータリー

ロータリーの力を信じよう!

国際ロータリー会長 ジェニファー・ジョーンズ

八戸ロータリークラブ会長 小林 幹 夫

3 月 は 水 と 衛 生 月 間 で す

第3263回例会 2023.3.8

会 長 要 件 小林 幹夫 会長



3月に入りとても暖かくなりました。雪が融けてだんだんに春という感じです。わたしの仕事でいいますと、来週の15日までが確定申告の時期で、まさにその真っ最中です。今日の午前中も30位の申告書に目を通して、目がだいぶ疲れている状態です。

きょうは3月8日「サバの日」です。この間初めて知りました。知ったきっかけがスパーのちらしです。チラシをみていたら「3月8日はサバの日」と、サバの弁当や切り身を売っているのを見て、サバの日なんだと思っていましたら、今朝の朝食に焼きサバが出てきました。

ちなみにうちの朝ご飯はいわゆる昔ながらの朝ご飯。ご飯、味噌汁と必ず焼き魚と何かもう一品。それをうちの子どもたちは当たり前のように思っているんですが、今学校に行くとはほとんどパン食らしく、あるいは朝ご飯を食べてこない子供たちがいるようです。自分の子供が先生から友だちに朝何を食べて

いるの?といわれて、今のメニューを言うとえ?ええ!という感じになって、クラスに同じような人が1人いるかどうかの話になっていました。

サバが全然獲れていないという現実がありますので、大変だと思いますが、おなか一杯にサバが食べられるような漁獲高になればいいなと思っています。

入会式

種市良雄 医療法人内科種市病院理事長
推薦者: 紺野 広



推薦者: 種市良雄さんは内科種市病院理事長で今44歳です。八戸赤十字病院消化器内科に2016年(平成28年)4月1日~2014年10月20日までの約1

年7カ月の期間在籍なさり、科は違いますが、その間わたしも同僚として一緒に勤務していました。

良雄さんの伯父には当八戸ロータリークラブ第41代会長種市襄先生がいらっしゃる、御尊父は八戸中央ロータリークラブ第5代会長の故種市良博先生です。当クラブの種市良意

先生もご親戚でもあります。

入会の動機は亡くなられたご尊父が楽しそうにロータリー活動を行っておられたことを幼少時から見てこられたことから、いずれはロータリークラブに入会するものと漠然と思っておられたそうです。わたしは機会を見ては当クラブにお誘いを申し上げておりましたが、御母堂様はもしロータリークラブに入会するならご尊父が入っておられたクラブに入りなさいとおっしゃられていたとのことで、良雄さんは板挟みとなりどちらのクラブに入会するか決めあぐねておられたとのこと。まだ44歳と入会にはまだ早いのではという気持ちもご本人にはおありだったようです。

迷われておられた入会を後押しした一つの出来事として、伯父である種市襄先生からの本当に強い、ある意味怖い圧を感じる当クラブへの入会の勧めがあったそうです。最終的には当クラブホームページの内容を通読、閲覧し、特に道尻年度の八戸ロータリークラブレター年度末号を読んだことで、当クラブを選ぶというご判断をなされ、入会を希望するにいたったとのこと。

良雄さん好きな言葉にわたしと共通のものがあります。「種の起源」の著者として有名なチャールズ・ダーウィンが残したものです。

『It is not the strongest of the species that survives, nor the most intelligent that survives. It is the one that is most adaptable to change. 生き残れる種とは最も強いものではない。最も知的なものでもない。それは変化に最もよく適応したものである。』という言葉です。

共に病院経営に悩み、苦心しているからお互いにその言葉に惹かれ、そして力をもらっているのだと思います。

良雄さんは新型コロナウイルス感染症に対し、自身で病院の先頭に立ち、発熱者外来を行ってくださっています。その規模は八戸市の救急医療施設、病院、輪番制3病院につき、民間中規模病院を凌ぐもので、時期も流行当初からと圏域の医療を牽引するものでありました。あまりに多くの発熱者を診ていたため

に医療資機材不足し、わたしの病院から供与させていただいたこともあります。

必要なときに行動を起こせる決断力、行動力そして若さ溢れるリーダーシップは当八戸ロータリークラブのこれからの未来に大きな力をもたらしてくださることを確信しています。良雄さんには今まで仕事で職業で、地域に貢献奉仕していただいていたが、引き続き圏域の医療をしっかりとお支えいただくことのほかに、ここにいる諸先輩、仲間たちと親睦を図る中で、医療以外の奉仕に関しても考えていっていただきたいと思います。そしてクラブの皆様におかれましては、後輩として仲間として、良くお導きいただくことをお願いして、推薦者からの挨拶をさせていただきます。何卒温かいご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

バッチ伝達：

新会員挨拶

種市良雄 医療法人内科種市病院理事長



中居林で病院をやっています。

歴史と伝統のある八戸ロータリークラブに入会させていただき、たいへんありがとうございます。まだどういう活動をしているかどうか、わたし自身も理解もしていないところもありますが、皆さま方にご指導をいただいで、八戸ロータリークラブに貢献していきたいと思っています。何卒よろしくお願い致します。

入会のきっかけになったこととしまして、紺野先生から3年くらい前から誘われてはいましたが、なかなか病院の方が忙しく、口実を作って返事をしていませんでしたが、伯父の襄からお前の爺さんは患者さんを手術台に置いてもロータリーには参加していたと言われました。忙しいのは理由にならないという強力なプッシュもありました。

では八戸ロータリークラブのホームページを見てみようと思ひ、そこに紺野先生の病院運営に大変苦勞されているような記事がありました。わたし自身も同じようなところで

悩んでいて、ひじょうに孤独でした。紺野先生の記事を読んで心の琴線に触れるようなことがあり、紺野先生が誘ってくれるのであれば八戸ロータリークラブに参加してみようと思いました。1月中旬に入会させてくださいとお願いして、今に至った次第です。

父が中央ロータリー会員で幼少期からクリスマス会には出ていましたが、具体的にはどうしているかは理解していない未熟者です。今後とも温かいご支援をいただければと思いますので、何卒よろしくお願いいたします。

2022-23年度理事役員・各委員会組織発表
紺野 広次期会長

省略

幹事報告 正部家光彦 幹事



○3月15日と3月22日は移動例会となります。15日は八戸パークホテル、22日は八戸プラザホテルです。移動例会でするので最小限に荷物を抑えた

と思います。席はくじ引きにします。
○なぞかけ 花粉症の季節とかけて 動物園の猛獣とときます。その心は 鼻たれる(放たれる)とたいへんです。

委員会報告

親睦・会場委員会 増田 敏委員



○ニコニコボックスの報告
・誕生祝 築館智大さん
・奥様誕生祝 峯 正一さん
・結婚記念日 荒谷達也
熊谷清一さん(前回)
佐々木泰宏さん

小林幹夫さん 種市先生、ようこそ八戸RCへ!

橋本八右衛門さん 次はPETSです。がんばりましょう。

夏川戸 齊・小井田和哉 } ニコニコデー
山村和芳・赤澤栄治さん }

ロータリーの友委員会

「ロータリーの友」3月号でビブリオバトル
深澤 隆委員長

バトラー



夏川戸 齊さん 紹介記事
「教室の空気から 地域の子どもの元気、笑顔をつくりたい」

横組みP12「教室の空気から地域の子どもの元気、笑顔をつくりたい」という愛知県の豊川宝飯RCの伊藤さんの記事をご紹介します。この方は工務店の会長さんをしていて、別の団体で「この国の森から始まる家づくりの会」の代表を務めています。この団体の活動として、教室の空気はビタミン剤運動ということで始めた企画で20年以上続いています。事の始まりは、中学校で建築の仕事をテーマに出前授業をしたところ、多くの生徒が下を向いたままで、これではいかんと思ったそうです。そこで、皆さんが明るくなるためには自分にできることはいくつだろうかということで考えたことが始まりだそうです。

この活動の内容は、皆さん昔を思い出していただければわかるかと思いますが、黒板の脇に時間割や掲示板があったと思います。その掲示板に県産材の間伐材の杉を使用して掲示板に貼るという事業です。ただ、工務店の大人たちが貼るのではなく、子どもたちが手作りできいろいろやって、釘を打ったり、貼り付けたりすることで教室の生徒の表情が明るくなった。一つの教室を試しにやったところ、その学校の校長から教室の雰囲気の変化に驚いて、全クラスをやっていただけないかといわれ、そこから始まったそうです。

この活動については、愛知県やロータリー地区補助金、ロータリー拠出金などを利用して材料購入などをしながら活動を続けているそうです。そういった活動が認められ、環境大臣賞受賞など賛同者が増えて、市内の小学

校全部に貼り終えるなど活動が活発化しているそうです。

ただ、1回貼ってしまうともう終わりというのではなく、学校ですから入学する子もいれば卒業する子もいるということで、今度は第二ステージが用意されています。卒業生あるいは先輩たちが貼ったものをまた自分たちで剥がして、自分たちで削って、やすりがけをしたり、自分の目標や思い出を書いて、ほとんどの生徒が自分の家に置いて残しているそうです。

この活動の他、この会では植林、木工教室、森に親しむための山の見学会なども行っています。

記事には子どもたちが木工教室でカンナをかける写真や掲示板に触りながら満面の笑顔の写真が掲載されています。ぜひとも読んでいただいて、わがロータリーの活動の参考にするべきものではないかと思いました。このように1回やって終わりではなく、継続する奉仕の典型的な活動ではないかと思います。こういう活動ができれば、ロータリーの会員増強にもつながるのではないかと思います。ぜひ皆



さんで見ていただいて、子どもたちの写真を見ていただければと思います。

質疑応答：

Q1 深澤：「教室の空気はビタミン剤」とありますが、木造になると空気が入れ替わったりするなど影響があるんですか？

A1 小林：校長先生がその教室の雰囲気が変わった。それにすごく驚いて、元々が1つの教室で終わるところを全教室に行った。そこから始まって小学校、中学校、高校もやるようになった。見ていただきたいのは子どもたちの写真がひじょうにいい顔をしているところです。その辺を見ていただきたいと思います。



小林幹夫さん 紹介記事

「学ぼう！Rotaract① ローターアクトって何？」

今回のビブリオバトルを野球に例えますと、一番バッターは夏川戸さん、二番バッターはわたし、三番バッターは村上先生。二番バッターのわたしとすると、村上先生にきちんとつなぐと言うのが役割かなと思っています。

私が選んだテーマは横組みP16~17「ローターアクトって何？」です。連載物で、これから何回か続く予定の第1回目の項目になります。なぜわたしがこの記事を選んだかといいますと、わたしのロータリーの歴史そのものといえますか、ここに関わっていきます。わたしは2008年に八戸ロータリークラブに入会しましたが、入会した時は30代後半でしたので、クラブの中では最年少でした。そういったこともあり、3年後にはクラブのローターアクト委員長を命ぜられ、その数年後の2014年~2016年の3年間は、今度は地区のローターアクト委員長を仰せつかりました。その関係もあり、このような記事を選ばせていただきました。

今回のP16~17の記事はお二人の方の会話で成り立っています。たぶん上の方は宝地さん、二番目の方は上佐間さん、宝地さんと上佐間さんがローターアクトについて話しているという内容かと思っています。

ロータリーの大きな括りでいいますと、今われわれが属しているロータリークラブと、掲載しているこの記事では“18歳以上の若者”となっていますが、一昔前までは“18歳から30歳までの若者”となっていました。その若者が所属しているのがローターアクトクラブ、先月工大二高の高校生がここに来て発表しましたが、いわゆる高校の部活動に類似するような団体としての“インターアクトクラブ”の3つにわけることができます。

一応年齢で区切っているという感じです。高校生がインターアクト、18歳以上がローターアクト、大人がロータリークラブというようなことで、それぞれの団体はそれぞれの

組織をちゃんと構えて、それぞれ会長、幹事がいるというふうな形になっています。

先ほどわたしはローターアクト委員長をやっていたという話をしましたが、そのときはちょうど30歳までという年齢制限があった時代でした。わたしは地区のローターアクト委員長だった時代には毎年20代のアクトの若者をインドのポリオ撲滅活動に連れて行った記憶があります。毎年1人ないしは2人のローターアクトを連れて行ってやりました。その時はお金のない若者とお金のない我が2830地区。どうやって旅費を捻出しようかとすごい悩んだ記憶があります。

当然20代にとってもとてもすごい、いい経験だったとわたし自身も感じています。ついこの間の12月に同窓会みたいなものをやりました。10年経ったらローターアクト同士で結婚している人もいましたし、母親になってお腹に赤ちゃんがいる状態で同窓会に出た人もいました。一人は30代で北九州の久留米市の市議会議員になっている子もいたり、頑張って20代のリーダーになった方は30代になっても輝いているような感じをすごく覚えました。

ローターアクトクラブは16ページの下にあるように、大学を基盤とするクラブと地位を基盤とするクラブになっています。今現在2830地区では青森、弘前、五所川原、八戸、むつの一応5つのクラブがあることになっています。あることになっているというのは、実は八戸ローターアクトクラブは会員0です。ただ、0とすると国際ロータリーから解散だと言われてしますので、事務局の山田さんを登録しています。ただこれもあくまでも暫定的なものですので、これはちょっと解決しなければいけないと思っています。首の皮1枚で残っている状態ですので、よろしく願いします。

この記事を読んでいる中で、八戸ローターアクトクラブを今後どうすればいいのか。これはその時々で会長幹事が決めるものではなく、今ここにいる皆さんがいろんなことを話し合っ

て入れながら、やるんだったらちゃんとやったほうがいいところだと思います。皆さんと共に考える時を提供したということで発表を終わりたいと思います。



深沢：山田さんを登録していることを今初めて聞いて驚きました。ローターアクト委員長の鴨澤さん、ご意見はありませんか？



村上壽治さん 紹介記事

「卓話の泉」

縦組み P60 「卓話の泉」

この方の卓話が興味がありましたので、ご紹介します。

この方は自給率についてお話しをしています。自給率は、皆さんご存じだと思いますが、自分に必要なものを自分の力で確保し、それを処理して生きていく。そういうものが自給率。言い換えれば自分の力で生活をやっていくのが自給率だと思います。日本の自給率について、この方は話しています。

これは2040～50年の話で、ひじょうに日本の自給率は危険である、どうなるかわからないと話しています。4つのことを話しています。

①2050年くらいになると人口がものすごく減ってくる。人口減少によって何が起きるかという、今ピラミッド社会ですが、高齢者が多く、50代以下40代がひじょうに少なくなってきています。これがますますひどくなって行って、生産能力が落ちるとこの方は言っています。

要するに高齢者が亡くなって、労働人口が減っていく。若者の出生率がひじょうに減る。生まれない。今、岸田首相も異次元の対策とひじょうに頑張っていますが、人口が去年統計でみますと60万人減っています。これが毎年何十万人減っていくとどうなるか。自給率が人口の低下によって減っ

ていく。それが危惧される。人口減少について自給率が危ない。2040～50年はたいへんなことになるかと最初に描いています。

②電力エネルギーについて。日本は2019年12.1%、2020年11.2%とひじょうに少ない。OECDの36か国中35位と日本はひじょうに生産原料がない、ほとんど輸入されています。石油、石炭、ガスなどどんどん原料を輸入しています。1割ちょっとしか自前では獲得できていません。この前、小井田前会長が石油価格が上がっているとお話されていましたが、電力エネルギーが確保できていないのが戦争などによって増々高くなってきて、獲得するのがひじょうに難しくなっています。自然エネルギーもなかなか十分なほどは出てこない。原発もどうなるかわからない。そういう状況で自給率に影響する電力エネルギー確保がだんだん難しくなっています。

③食糧。われわれが生きているために食糧自給率がひじょうに大切です。食料自給率をどうやって計算したかという、熱量からカロリーを計算し、全食糧を人口の1人1日必要な栄養素の計算だそうです。日本は2021年食糧自給率は38%と、世界に比べるとひじょうに少ない。6割くらいは輸入に頼っているようなものです。ただ米だけはけっこう豊富に作っていて、輸入しています。

青森県は5、6年前に知事と懇談がありましたが、青森県は104%ですよと威張っていました。青森県は今100%を切っているかも知れませんが、100%近いのではないかと思っています。他の県が倒れてもわれわれは米とりんごと野菜で生きていける。

ただ東京などの大都会ははっきりした数字は分かりませんが、自給率10%もいっていないでしょう。彼らは流通が何とかやっていますが、何か起きて流通がストップしたら都会は困って東京脱出、食糧難民が出てきます。われわれ地方に押し寄せてくると思います。戦後の食糧難時代の買い物

に行ったような事態が2050年頃には起きるであろう。ロジスティックの上に立った虚構の都市。あっという間にシステムが崩れてしまうような大都会は危ない上に立っている都会です。それに比べるとわれわれはまだ身近に生産するものがあります。

それでも気候変動などいろいろあると、現在も農林水産省が減反したり、農業人口が減っているし、魚も獲れなくなってくるし、やはりわれわれとしてもひじょうに苦しい世界があと20～30年後にはくるといふことです。

世界人口は80億人、インドがトップで中国を抜いているようですが、30年後には約100億人近くになり、世界の食糧争奪戦が始まります。日本にも外国資本が入ってきて、土地、水などどんどん占領されるようになるかもしれないという危惧をはらんでいます。

④この筆者は薬局をやっている方です。薬のこと、薬剤の原料について書いています。日本には昔、武田、第一三共、塩野義などたくさん大手の製薬会社があり薬を作っていました。今はほとんど手を引いてしまって、大手は本当に少なくなって、外国の原料に頼っています。国内生産はほとんど儲からないということで手を引いています。

世界のトップ10を見ますと、日本で入っているのは武田薬品くらいでないでしょうか。薬の需要は35%、製薬会社の国内生産は35%とありますが、今はほとんど製薬会社は作っていないので10～20%くらいしかないのではないのでしょうか。その代表的例が新型コロナワクチンで、ファイザーから何十兆円と買ってしまって、これがひじょうに日本の国力として残念なことでした。今は塩野義も頑張っていますが、どうなるかちょっとわからない。将来は漢方薬で凌ぐかもしれません。医療レベルの低下もちょっと危惧されます。

これからこれをどう解決していくかといういろいろなアイデアも出ています。産学官の日本の底力を見たいものですとこの

人は話をしています。

20～30年後はどうか、たいへんなことになるらしいです。わたしは高齢者ですから飲んで食べて楽しくやっていますが、若い方々は将来を危惧して自給率ができるか、人口動態をよく考えて頑張ってください。

今はウクライナ有事ですが、台湾も台湾有事とささやかれています、本当の有事はわれわれ日本であって、30年後にこういうたいへんな有事がくる。日本に対しては



“静かなる重要な有事”とささやかれています。静かに進行してくるようです。この解決策をみんなで考えて、ロータリーも頑張っていければと思っています。



深澤委員長：卓話的なお話でもうちょっと深めてお話しただけだと思います。

3名の方も発表を終わります。3名の方の記事の紹介を

聞いて、その記事を読みたくったという方に挙手をお願いします。今回の勝者は夏川戸さんでした。きょうの発表者の方は参加賞をお受け取りください。

今月のロータリーの友は水と衛生の月間の特集になっています。それにちなんで森の話、自給率の話があったのかと思いますので、皆さんもぜひ手に取ってお読みいただければと思います。

出席報告						出席委員会					
第3263回例会（3月8日）			第3261回例会（2月22日）								
出席率		63.3%		出席率	55%	修正出席率	61.7%				
総会員数		62名	出席数	38名	総会員数	61名	メイクアップした人数	4名			
出席義務会員	60名	出席免除会員	2名	欠席数	22名	出席義務会員	60名	出席免除会員	1名	欠席数	23名